

INDEX

ことば徒然
言語性を伸ばす指導

ことば徒然

子どもは発達する力を秘めています。
幼児期には、ことばを学習していきます。
理解できることばをふやし、一語、二語、三語・・・で表現できるようになります。
幼児吃は、その過程の一時期にあらわれます。
大半の子どもはいつの間にか消えていきます。
しかし、いつまでも症状が消えない子がいます。
さらに、その子たちの中にも、話すことの安心感を育てることで吃音の症状を軽減できる場合もあります。
楽に話すことを経験することで吃音を改善できる場合もあります。
一方で、吃音が進展し、話すことへの恐れや緊張があらわれる場合があります。

吃音には、いろんなケースがあります。
その原因、その症状のあらわれ方や進展の仕方など個人差があります。

言語性を伸ばす指導

1年のこくご下の教科書に「くらべて せつめいしよう」という題材があります。
そのときに絵カードを使い、表現方法を学びます。
大小、長短、高低、多少関係を理解し、比較の表現を学びます。
共通点や似ているところを探し、表現方法を学びます。
ちがうところを探し、表現方法を学びます。

ぞうとありの絵カードをならべて

「ぞうは ありより おおきい。」

「ありは ぞうより ちいさい。」

「大きさを くらべると、大きいのは、ぞうの ほうです。」

「大きさを くらべると、小さいのは、ありの ほうです。」

子どもの筆箱にあるえんぴつや消しゴムを使い、背比べや大きさ比べなどもできそうです。

えんぴつとクレヨンの絵カードをならべて

「えんぴつも クレヨンも かくときに つかいます。」

「えんぴつと クレヨンは、どちらも かくものです。」

えんぴつで ノートに じを かき、クレヨンで がようしに えを かきます。」

___/

漂泊鳥から

去年の12月25日に melma 様にお世話になり

「ことばだより」の第1号を発行しました。

そして今回で50号です。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

___/

=====
ことばだより No.49

ことばのもり 2003.11.26
=====

INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことば徒然

子どもは、発達とともに自分の世界、親との世界、友だちとの世界を形作っていきます。

始めはほとんど寝ていた赤ちゃんが、動くものに目を動かし、首を動かして追って行きます。

やがて手を動かしてつかみます。

はいはいをし、立ち、歩くことで自分の世界を広げていきます。

いつも身近にいてくれる大人を知り、人見知りが始まります。

その大人の後を追ひ、やりとりをし、関係を深めていきます。

こうして親との世界をつくります。

そして親との関係が深まることで、この次の友だちとの世界をつくっていきます。

親との世界でいっぱいエネルギーを溜めて、同年齢の子どもの世界に飛び込んでいきます

言語性を伸ばす指導

話しくさが出てきたら

園での出来事をあれもこれも話したいけれど、うまく表現できないているのかもしれませんが。

小さく限定して問うようにすると、どうでしょうか。

園で何があったの？

と問うと、子どもは、半日の出来事が頭に浮かんできます。

それをことばで表現するのは、難しいことでしょう。

しかし、

朝は、だれと遊んだの？

何をして遊んだの？

楽しかった？

小さく限定して問うことで、子どもは話しやすいかもしれません。

___/

漂泊鳥から

寒くなりました。

足元から寒さを感じます。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

___/

=====

INDEX

ことば徒然
言語性を伸ばす指導

ことば徒然

車の絵カードを見せて

「タイヤはいくつある？」

と問うことがあります。

車がイメージできていれば

「4つ」「4本」

と答えます。

しかし、

「2つ」「2本」

と見えるタイヤを数え、答える子がいます。

これは、イメージができていないか、見えるタイヤの数はいくつかと考えたかどちらかです。

「この向こう側にもタイヤは2本あるよ」

と、ことばによる指示で修正させます。

言語性を伸ばす指導

あ行からか行のひらがなでできることばを集めてみました。

・色の名前

あお、あか、き、

・名前のことば

か、き、こい、かき、かい、いか、きく、いえ、うお、きかい、かお

・時間のことば

あき、

・場所のことば

INDEX

ことば徒然
言語性を伸ばす指導

ことば徒然

WISC - ?の検査で言語性下位検査に〔理解〕という検査があります。

その中に

「あなたがもし友達のボールをなくしたとき、あなたはどうしますか」
という問題があります。

この問いに、

「なくしたことはない」

「友達のボールをなくしたことはない」

と答える子がいます。

これは今までの経験を答えていると考えられます。

こんな場合、もう一度同じことを問います。

「ボールをさがす」

「あやまる」

という答えが返ってくれば、概念で答えていると考えられます。

言語性を伸ばす指導

あ行「あ」「い」「う」「え」「お」とか行「か」「き」「く」「け」「こ」をあわせてことば
集めをすると

名前のことばだと、

「え」「か」「き」「け」

「いえ」「かき」「かい」「きく」「いか」「いけ」「えき」「おけ」「こい」

「おかき」「くうき」「きかい」

「おけいこ」

動きのことばだと

「あう」「いく」「おく」「うく」「かう」「きく」「かく」

色のことばで

「あか」「あお」「き」

その他に

「おおきい」

2語の語連鎖を作る。

ひらがな文字を読めるように指導していきます。

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

漂泊鳥から

紅葉に朝日があたっている。

いつもの道、毎日歩いている道です。

鞆からカメラを取り出して、一枚撮りました。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

=====
ことばだより No.46

ことばのもり 2003.11.5

=====
INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことば徒然

子どもは2・3歳くらいから絵本を読んでもらうのを楽しみにしています。

絵本の絵だけを見て、自分のことばで表現し、お母さんとやりとりをはじめます。

やがてお母さんが子どもに読み聞かせをします。

書きことばを耳にした子どもは、話の内容にひたっていきます。

それは、絵だけから自分のことばで表現していた以上のことをイメージできるからです。

このようにして、文字への関心を深めていきます。

大日本図書の「乳幼児のことば」を参考にしました。

言語性を伸ばす指導

45号の続きです。

4、問いに答えて、カードに書いて、対応する

- ・ 山の神様のお祭りはいつあるんですか？
- ・ だれが見ることができるんですか？
- ・ どんなお祭りとしさまは言っていますか？

と問い、答えてから、カードに書きます。

そして、

「いつ」「だれが」「どんな」「なにを」「(カードを提示しながら)見ることができるんですか？」と問い、

子どもが書いたカードと対応させる。

5、問いに答えて、文章化する

4の問いに答えてから、一文ずつ書く。

たとえば、

山の神様のお祭りは、霜月二十日のばんにある。

勇気のある子だけが、見ることができる。

モチモチの木に灯がともる。

___/

漂泊鳥から

霜月に入りました。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

___/

=====
ことばだより No.45

ことばのもり 2003.10.29
=====

INDEX

ことば徒然

言語性の指導

ことば徒然

こうして書いていると、自分の仕事が少しずつまとまってきました。

うれしいものです。

この文字はいつごろから習得し始めるのだろうか

子どもがひらがな文字に関心を示すのは、個人差が大きいようです。

3歳ごろから関心を示す子もいますが、だいたい4歳ぐらいから関心を示すようです。

はじめは自分の名前の文字に関心をもちはじめます。

そして道を歩いていると、自分の名前の文字を探し出します。

知らない文字を見れば「あそこになんて書いてあるの」と聞くようになります。

一文字でも読めると、ほめてもらえることで文字への関心は高まっていきます

90パーセントの子どもは、小学校入学までにひらがなを読めるようになっています。

そして小学校の6年間で、書きことばを通して学習し、経験したことを書きことばで表現

できるようになります。

言語性の指導

3年下の国語に「モチモチの木」という題材が載っていました。

霜月二十日のばんの場面で次のような問いを考えました。

1、書いてあるとおりに問う

- ・ 霜月二十日のうしみつに、何に灯がともるのですか？
- ・ それをだれが見たことがあるんですか？
- ・ それは、何と言うお祭りなんですか？
- ・ それを見ることができるのは、だれだけなんですか？

2、書いてある順番に問う

- ・ 霜月二十日のばんに、何が起きるんですか？
- ・ じさまは、それをなんと言っていますか？
- ・ どんな子が見ることができるといっていますか？

3、書いてあるのとは逆に問う

- ・ 勇気のある子は、何を見ることができるんですか？
- ・ それを山の神様の祭りといっているのは、だれですか？
- ・ 山の神様のお祭りはいつあるんですか？

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

漂泊鳥から

風邪もやっとなおりそうです。

休みの日には、外に出かけて、光りを浴びようと思います。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

=====
ことばだより No.44

ことばのもり 2003.10.22

=====

INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことば徒然

学習能力の中でもたいせつな力に「記憶力」があります。

視覚記憶、聴覚記憶、短期記憶、長期記憶、

作業記憶、手続き記憶、宣言的記憶、エピソード記憶、意味的記憶

これらをまとめて「記憶力」と言います。

教室では、ばらばらになっていることばを整理して、子どもに提示するようにしています。

一つのまとまりを子どもに提示するようにしています。

意味的記憶を作りやすいように取り組んでいます。

言語性を伸ばす指導

たまごとニワトリの絵カードを見せます。
「たまごの次はなんと言うの？」
「ニワトリの前はなんと言うの？」
「ニワトリの子どもはなんと言うんだっけ？」
というんな問い方をします。

漂泊鳥から
風邪を引いてしまいました。
みなさんもうがい、手洗いをしましょう。
ことばのもり 管理人 漂泊鳥

=====
ことばだより No.43

ことばのもり 2003.10.15
=====

INDEX

ことば徒然
言語性を伸ばす指導

ことば徒然

ことば数が、どんどんふえていけば、それだけ表現できる物事が多くなります。
自分の頭の中の引出しが整理され、いつでも必要なときに取り出せ、時と場に応じた表現ができます。

パソコンで言えば、一つひとつの文書がフォルダに整理されている。
さらにフロッピーやCDに項目ごとに保存されている状態を言うのでしょうか。
必要なときにすぐに探し出せ、画面上に出てくるのでしょうか。

言語発達が遅れているということは、一つひとつの文書はあっても、フォルダに整理されていないことを言うのでしょうか。

フォルダがあってもフロッピーやCDにばらばらに保存されていて、使いたいときに見

当たらない状態を言うのでしょうか。
必要なときに見つけることができない状態とおなじですね。

言語性を伸ばす指導

たまご - おたまじゃくしの絵カードを見せて、
「この後どうなりますか？」
と問い、答えを待ちます。
答えが返ってこなければ、かえるの絵カードを見せて
「かえるになります」
と教えます。
「たまごからおたまじゃくし、おたまじゃくしからかえるになるよ」
ともう一度確認します。
「たまごとかえるの間は何と言うんだっけ？」
と問います。

漂泊鳥から

秋の季節は、何でもできそうに思ってしまう。
つい無理をしがちです。
次の日に、疲れが残ってしまいます。
ことばのもり 管理人 漂泊鳥

=====
ことばだより No.42

ことばのもり 2003.10.8
=====

INDEX

ことば徒然
言語性を伸ばす指導

ことば徒然

もうそろそろ就学時健康診断があるかと思えます。
その是非も問題になっていますが、やはり必要に思えます。
子どもの健康について調べ、親御さんに伝えます。
入学までに治療するいい機会のように思えます。
また、一人ひとりの子どもの情報をつかんでおくことは、クラス分けや入学式からの学級指導にも役立つものです。

学級を持っていたころ、1学期の始業式の前に、健康診断票や歯科検診票、指導要録を見ながら、「この子は虫歯がない。」「一日も休んでいない。」「身長が高いんだ。」「健康に注意しないといけない。」と言った情報を書き留めていました。
一年間の学級経営をどうするか考えはじめていました。
来年、入学する年長幼児が、健康診断をしながら、前もって小学校の校舎の中を、まわるのも慣れるためにはいいと思えます。

また、面接で子どもの発音を調べ、誤りがあれば、すぐに対応できます。

言語性を伸ばす指導

以前の国語の1年の教科書に「じどう車 くらべ」という題材がありました。
その内容をヒントに考えてみました。
電化製品の絵カードを使って、そのはたらきを説明させます。
こんな質問をします。
どんなときに使いますか？
どのように使いますか？
どこにありますか？
どんな形をしていますか？
これがあることで、どんなことが助かっていますか？
もし、これがなくなれば、どんなことがこまりますか？

漂泊鳥から

やっと秋らしくなってきました。

すごしやすい季節です。

「ことばだより」の感想は「もりのポスト」にお寄せください。

<http://www3.kcn.ne.jp/~ntakashi/cgi-bin/postmail/postmail.html>

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

=====
ことばだより No.41

ことばのもり 2003.10.1
=====

INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことば徒然

1年の教科書に「くらべて せつめいしよう」があります。

この前の教材で学習した「おなもみ」と「ななかまど」の種の間と違っているところを説明しています。

つづけて「でんしゃ」と「ひこうき」を比べて、作文で表現しています。

そして、「いぬとねこ」「トラックとバス」を比べてみようと思ひかけています。

WISC - ?の類似という言語性の下位検査と同じです。

「タイヤとボール」「ねことねずみ」のおなじところは？と問います。

求められるのは、形や色ではなく上位概念です。

言語性を伸ばす指導

1年の教科書に「だいじな たまご」という題材が載っています。

それをまねして、「ためです」作文を書いてみようと思ひます。

男の子が寝込んでいる絵カードを見せて、

「男の子がどうしていますか?」「ねています。」
「なぜですか?」「かぜをひいたためです」
「どうして頭を冷やしているんですか?」「ねつをさげるためです。」
とやりとりしながら、「だいじな たまご」風に作文します。

漂泊鳥から

運動会の練習は、夏のような天気でした。

でも少しずつ秋の気配が・・・。

「ことばだより」の感想は「もりの掲示板」にお寄せください。

<http://www3.kcn.ne.jp/~ntakashi/cgi-bin/yybbs/yybbs.cgi>

ことばのもり 管理人 漂泊鳥